

「生徒は街へ、人々は学校へ」

池田中学校区MTP（マイタウン・プロジェクト）の試み

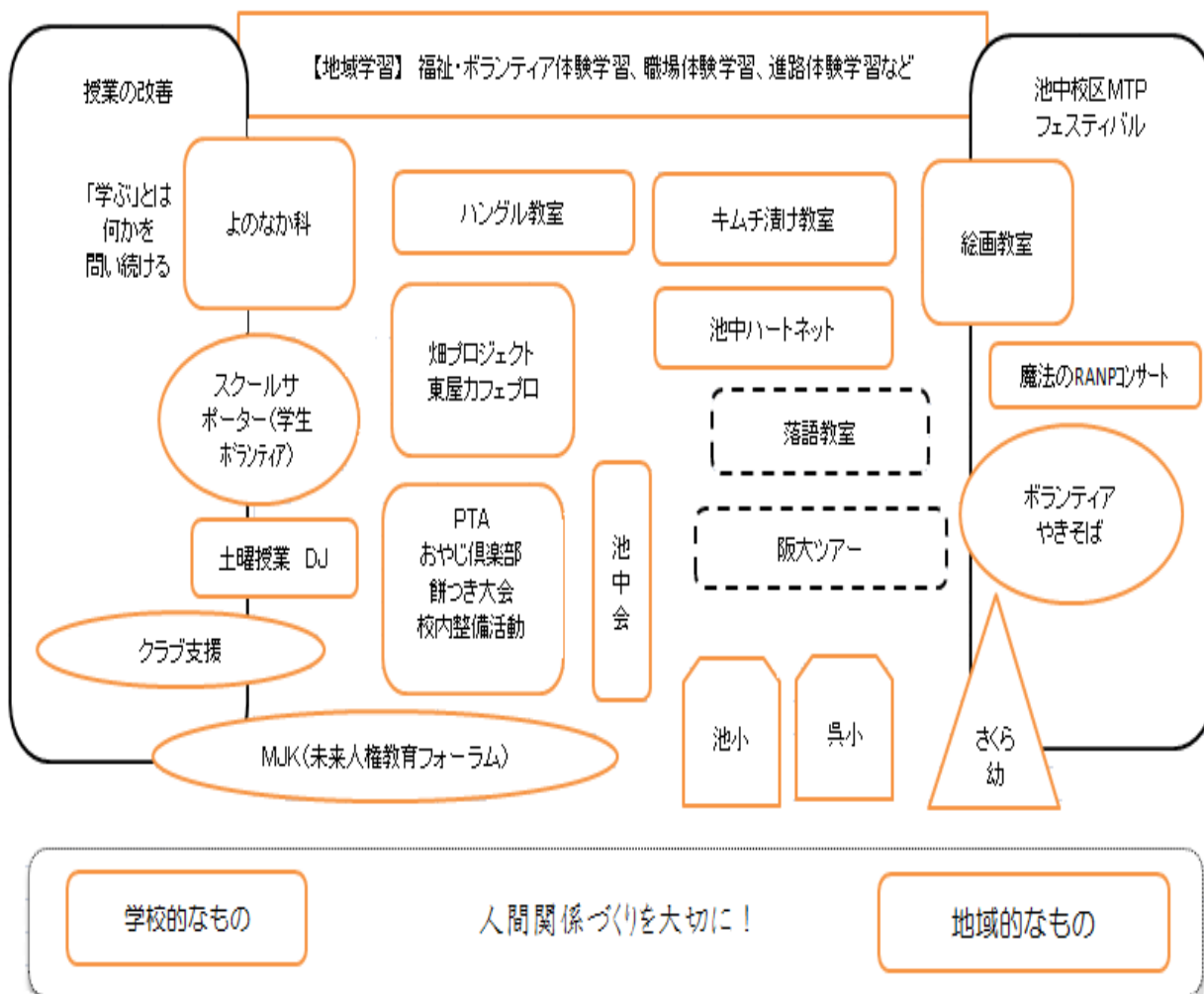
池田市立池田中学校長 笠井 賢治

1. 公立中学校の宿命 ～「地域」抜きには存在し得ないが…

住民感覚としては「小学校区」が単位 → 中学校では、新たな「関係性」による再編が必要

2. 池中の MTP(マイタウン・プロジェクト)とは

- ◆2007 年度ぐらいから本格化した、外部人材による池中教育支援活動の総称
- ◆学校からの呼びかけに応じてくれた地域のボランティア（地域住民・保護者・保護者 OB・卒業生・大学生・一般応募者ら）によって構成
- ◆活動費は学校支援地域本部事業より捻出（2011 年度より「地域コミュニティ推進協議会（小学校区単位）」からも援助）
- ◆現在まで、プロデュースの主体は「学校」。ただし「事務局」は 2010 年度より NPO 化



3. 「生徒は街へ、人々は学校へ」～ これぞ池中校区 MTP の最大の特徴

◆生徒は街へ（地域を生徒の「体験学習」の場に）

職場体験学習、福祉・ボランティア体験学習、進路体験学習、人権シティーウォーク、出前演奏、出店ボランティア、街角クリーン作戦 …etc.

◆人々は学校へ（学校を地域の人々の「生涯学習」の場に）

畑プロジェクト、絵画教室、ハングル教室、キムチ漬け教室、着付け教室、裁縫クラブ、花壇づくり、詩吟教室、珈琲研究会、土曜授業講師、アシスタントティーチャー …etc.

4. 「タテ・ヨコ・ナナメのやわらかネット」～ 「池中 MTP」から「池中校区 MTP」へ



<基本コンセプト>

みんなが本気になる「切実な課題感」で
「具体的・日常的・継続的」につながる

<留意点>

位置づけは明確に、運用は柔軟に

～地域との協働は、柔軟に運用していかないと、長続きしない

◆タテ ～例えば、特別支援教育の協働等、各校園に共通した「切実な課題」を柱とする「保・幼・小・中（・高）一貫教育」のシステム

◆ヨコ ～学校園・家庭・地域の協働による、生徒の自己実現支援システム。

（従前の池中 MTP）

◆ナナメ ～学校にやってこられる地域住民と生徒との日常的交流によって生まれる、直接の利害関係のない人間関係 → これが学校を救う！

5. 産むは易し、されど、育てるは難し！？

- ◆「産み」の必然
 - ①家庭の多様化
 - ②教師の多忙化
 - ③地域力の拡散

◆「産み」の方略

①学校からの具体的な働きかけ

カーテンは内側からしか開けられない

②日常的な「生涯学習の場」の提供

自分にとって楽しいことが待っているから学校に足を運ぶ

③「やれる人が、やれることから、やれる時に」～継続的な取り組みの条件
とりあえずやってみて、あとは歩きながら考えよう



◆「産み」の成果

- ①「みんなで子育て」気運の浸透
(ex) 地域からの苦情電話の内容変化
昔「いったいどんな教育しとるんや！」
今「あの子、またアホなことしとった
から注意しといたで」
- ②「ナナメの関係」の威力増大
ヤンチャ生徒へのやわらかい説諭
- ③生徒のイラダチ感の緩和
タテの関係だけでない学校生活環境



◆「育てる」課題と方略

- ①教職員の勤務体制の明確化（土曜日の参加は、いまだにボランティア）
立案班と実働班の機能分離、日常の教育活動の延長としての価値づけ
- ②活動費用の安定的確保
「善意」だけでは、長続きしない
「地域コミュニティ推進協議会（小学校区）」からの資金援助
- ③活動のマンネリ化と代替わり
常に新しい課題（活動のおもしろさ）に挑戦
(ex) 池中だけの催しから「校区 MTP フェスタ」へと拡充
池中の「土曜授業」への校区内小学校教員の日常的参加
教育系企業による「英検トライ」から「地域スタッフ」による指導への転換
- ④学校主体から地域主体のプロデュースへの脱構築
既存の地域組織（地区福祉委・民生委等）の取り込み
「地域コミュニティ推進協議会（小学校区単位）」との連携
細部についてのコーディネート地域への移譲
NPO化した「MTP」事務局の機能強化

池田中学校は、こう考えています



人と人との“つながり”が必要です！

教職員と生徒の共同作業に、家庭と地域の協力が支えとなり、
【池田中学校の教育の形】が作られていきます。